

5-03 テクニカル指標のプログラム化

▶ プログラムの基本的な考え方

MACDと移動平均線は、どちらもトレーダーが使用する機会の多い、代表的なテクニカル指標です。

まずは売買ロジックを解説します。買いポジション保有のロジックでは、1時間足の「移動平均線」が上昇していて、15分足の「MACD」が「ゴールデンクロス」した時に買いポジションを建てることにします。そして、その買いポジションの決済ポイントは、開いているチャートの時間足でトレール注文をしながら、移動する価格に追従していく形を取ります。

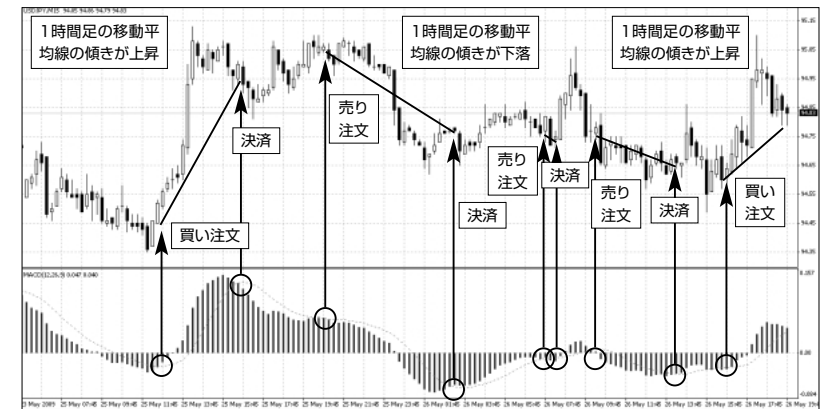
売りポジション保有のロジックでは、1時間足の「移動平均線」が下降していて、15分足の「MACD」が「デッドクロス」した時に売りポジションを建てることにします。売りポジションの決済ポイントは、開いているチャートの時間足でトレール注文をしながら、こちらも価格に追従していく形を取ります。どちらも注文時に損切り値を入れておきます。

このロジックをプログラム化します。

1時間足の「移動平均線」の2本前と1本前と現在の値を、それぞれ変数に代入します。これは「移動平均線」の2本前と1本前と現在の値を比べて、移動平均線が上昇しているか、下降しているかを判断するためです。

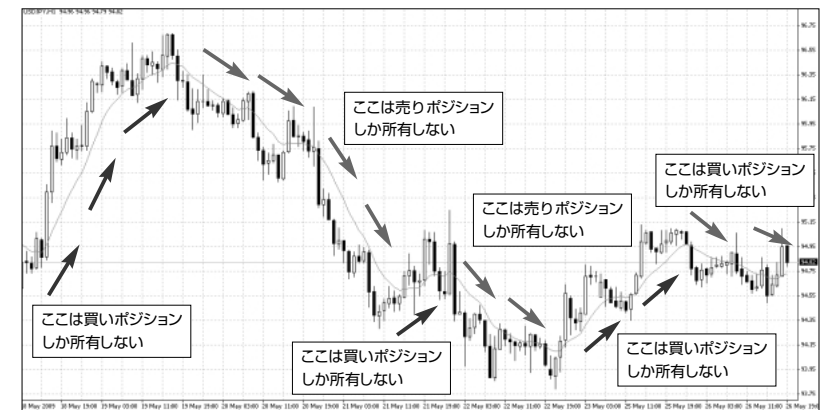
次に、15分足の「MACD」の1本前と現在の「MACD」と「シグナル」の値を、それぞれ変数に代入します。これは1本前と現在の値を比べることにより、クロスしたかを判断するためです。

▼MACDと移動平均線を使った売買ロジック



上図のように、MACDがゴールデンクロスで買い注文をし、デッドクロスで売り注文をします。

▼MACDと移動平均線を使った売りポジション



そして、上図のように移動平均線が、上昇していれば買いポジションで、下降していたら売りポジションを維持します。